

胃がん検診精密検査医療機関登録実施要綱一部改正

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会
鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 平成30年2月24日（土） 午後2時～午後3時45分
- 場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 22人
磯本部長、謝花専門委員長
秋藤・伊藤・岡田・尾崎・斎藤・田中・西土井・藤井秀樹・植垣・
三宅・高橋・八島・吉中・吉田各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：植木課長、米田課長補佐
山本課長補佐、松本係長
健対協事務局：岩垣係長、神戸主任

【概要】

・平成28年度の受診率は26.8%で平成27年度に比べ0.2ポイント減であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は76.4%で、年々増加している。

・確定胃がんは158例（X線検査：車検診15例、施設検診3例、内視鏡検査：140例）で、がん発見癌率は0.312%で、例年より低値である。早期がん率は74.1%で、平成27年度に比べ2.1ポイント減であった。

性・年齢別では、男性106例、女性52例であった。40歳代3人、50歳代2人、60歳代52人、70歳代60人、80歳以上41人で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。80歳代が増えている。

・新年度県のがん対策新規事業の職域検診におけるピロリ菌検査の導入について、陰性高値の者の取り扱いをどうするか意見交換され、実施医療機関を確認した上で取り扱いを検討することとされた。また、職域検診におけるピロリ菌検査により多くのデータが集まるので、データ分析して学会発表

等につなげた方がよいと意見があった。

薬物療法専門医等の養成支援について、外科の「技術認定取得者」への支援もお願いしたいとの意見もあった。

・本県の平成30年度の検診について、今年度の夏部会において、対象年齢、検診間隔については現行通り実施することとし、実施体制については、胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例は原則年間100症例以上（現行：50症例以上）に変更することとなった。

よって、県健康政策課より「鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録実施要綱」改正案が示され、検討を行った結果改正案のとおり改正することとし、「年間100症例以上」の取り扱いを医師個人か医療機関か明確にすることについては、改めて夏部会で検討することとなった。

挨拶（要旨）

〈磯本部長〉

ご多忙のところ、第2回胃がん部会及び胃がん

対策専門員会にご出席いただき、感謝申し上げます。

委員会終了後、午後4時から従事者講習会及び症例研究会が予定されている。本日は議題も多いので、ご議論をお願いする。

〈謝花委員長〉

本日は、磯本教授に講師をお願いして「H.pylori陰性時代の上部消化管診療」と題して、講演をしていただく。本日は、新年度の県のがん対策新規事業の職域検診におけるピロリ菌検査の導入について、議題に挙がっているので、活発なご討論をお願いする。

報告事項

1. 平成28年度胃がん検診実績報告並びに29年度実績見込み及び30年度計画について〈県健康政策課調べ〉：

山本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

〔平成28年度実績最終報告〕

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数はX線検査11,961人、内視鏡検査は38,684人で合計50,645人、受診率は26.8%で前年度に比べ受診者数825人、受診率0.2ポイント減少した。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は76.4%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数28,237人、受診率36.8%であった。

X線検査の要精検者数は1,028人、要精検率8.6%で、前年度より0.6ポイント増加した。精検受診者数889人、精検受診率は86.5%で前年度より1.8ポイント増加した。集団検診の要精検率8.4%。医療機関検診は9.6%（東部8.8%、中部15.6%、

西部10.5%）で、依然として医療機関検診の中部の要精検率が15.6%と高い。

内視鏡検査の組織診実施者数1,505人で、組織診実施率3.9%で、東部4.5%、中部4.3%、西部3.1%であった。

検査の結果、胃がん159人（X線検査15人、内視鏡検査144人）、がん発見率（がん／受診者数）は、0.31%（X線検査0.125%、内視鏡検査0.372%）で、平成27年度に比べ、胃がん12件、がん発見率は0.02ポイント減であった。胃がん疑い103人（X線検査6人、内視鏡検査92人）であった。

陽性反応適中度（がん／要精検者）はX線検査1.5%で、東部1.4%、中部1.7%、西部1.3%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ9.6%で、東部7.3%、中部9.1%、西部13.2%であった。

〔平成29年度実績見込み及び平成30年度計画〕

平成29年度実績見込みは、対象者数189,132人に対し、受診者数は51,812人、受診率27.4%で、前年度より約1,200人増加する見込みである。また、平成30年度実施計画は、受診者数53,142人、受診率28.1%で計画している。

〈地域保健・健康増進事業報告より〉厚生労働省ホームページで公開

○平成24年度～平成26年度鳥取県内市町村別精検未把握率

※平成24～平成26年度検診実績を元に算定。

精検未把握率とは、要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていない者の割合である。国の許容値は10%以下である。精検未把握率は平成24年度5.2%、平成25年度は3.9%、平成26年度は4.2%であった。

・許容値10%以下であるが、市町村によっては、許容値を超えるところもある。未把握率についてはゼロを目指していくべきではないかという意見があった。

○国が示した「がん検診のためのチェックリスト」を用いて本県の精度管理に活用することとし、健対協で把握できないチェック項目リストのうち国がホームページで公開している項目（検診受診歴（初回・非初回）別の要精検率等、偶発症の有無、精検未把握率）について、報告があった。

平成27年度報告の上記項目の集計結果は、検診受診歴別の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度の比較から、初回受診者からより高い傾向があることから、初回受診者の受診勧奨が課題である。

また、重篤な偶発症は全国で一次検診では6件、精密検査では8件報告されており、鳥取県は一次検診、精密検査ともに偶発例は報告されていない。

〈鳥取県保健事業団調べ〉：三宅委員

〔住民検診〕

平成28年度の受診者数10,045人で平成27年度に比べ1,403人の減少であった。

そのうち、要精検者840人、要精検率8.4%（東部7.6%、中部9.7%、西部8.0%）で、判定4と5の割合は5.7%（東部6.7%、中部5.4%、西部4.8%）であった。

要精検者数に対してのがん発見率は2.0%（東部2.2%、中部2.0%、西部1.7%）であった。平成27年度に比べ、要精検率は0.6ポイント増加、がん発見率は同率であった。

受診勧奨は市町村より行われているが、精検結果未報告は13.1%で、前年度に比べ3.2ポイント減であった。

初回受診者は1,370人で、要精検者は112人で、要精検率は8.2%であった。判定4と5の割合は12.5%で、平成27年度に比べ2.8ポイント増であった。

がん発見率は0.17%。

〔一般事業所検診〕

受診者17,878人のうち、要精検者は994人で、要精検率は5.6%で、判定4と5の割合3.6%で、要精検者数に対してのがん発見率は0.4%であった。判定4と5の精検結果未報告については、再度紹介状を出して、保健師の方から受診勧奨を行っているが、依然として精検結果未報告は36.0%と高い。

がん発見率は0.02%。

2. 平成28年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について：岡田委員

平成28年度に発見された胃がん及び胃がん疑い257例について確定調査を行った結果、現時点の集計においては、確定胃がんは158例（一次検査がX線検査：車検診15例、施設検診3例、一次検査が内視鏡検査：140例）で、発見癌率は0.312%で、例年より低値である。

その他として、悪性リンパ腫1例、食道癌1例であった。また、初回受診で進行のため手術不応で、がんと確定はしているが、経過観察中で、詳細が不明なものが増えている。

現在、調査中のものが数件あるので、最終集計はまとめ次第、後日、報告を行う。

調査結果は以下のとおりである。

- （1）早期癌は117例、進行癌は41例であった。早期癌率は74.1%（東部74.6%、中部65.2%、西部76.4%）で、前年度に比べ2.1ポイント減であった。
- （2）切除例は87例で、内視鏡切除が54例であった。非切除例が17例であった。
- （3）性・年齢別では、男性106例、女性52例であった。40歳代3人、50歳代2人、60歳代52人、70歳代60人、80歳以上41人で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。80歳代が増えている。
- （4）早期癌では「Ⅱc」が64.1%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が41.5%を占めている。例年通りの傾向であった。

(5) 切除例の大きさは2 cm以下のものが56.6%を占めたが、一方で5 cm以上のものが9例認められた。

(6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが8例で47.1%、内視鏡検査ではstage I Aが101例で75.94%であった。例年通りの傾向である

(7) 前年度受診歴を有する発見進行癌は、東部1件、中部2例、西部6件の計9件で、各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

3. 北栄町、伯耆町におけるピロリ菌検査の実績： 松本県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

○北栄町（平成27年度から実施）（平成30年1月25日集計分）

対象者：北栄町在住の中学3年生

方 法：尿中ピロリ菌抗体検査によるスクリーニング検査及び同検査陽性者に対する尿素呼気試験による感染確認の実施。
ピロリ菌感染が確認された者のうち除菌を希望する者には除菌治療を実施する。

結果は以下のとおりである。

区 分	H28受診者数	H29受診者数
対象者数	164	126
尿中ピロリ菌抗体検査受診者	127 77.4%	99 78.6%
陰性（-）	114 (89.8%)	91 (91.9%)
陽性（+）	13 (10.2%)	8 (8.1%)
尿素呼気試験受診者	12 92.3%	8 100.0%
陽性（+）者（真の陽性）	7 (5.5%)	6 (6.1%)
ピロリ菌除菌治療実施者	7 100.0%	6 100.0%
除菌完了者	5 (71.4%)	2 (33.3%)
除菌未完了者	2 (28.6%)	3 (50.0%)
（除菌判定未了）	0 (0.0%)	1 (16.7%)

○伯耆町（平成26年度から実施）平成28年度実績

対象者：20歳、35～70歳の者。

方 法：町内医療機関または集団検診会場で受

診者に対して採血し、抗体検査の実施。

陰性者にはペプシノゲン検査を追加。

結果は以下のとおりである。

区 分	H27受診者数（確定）		H28受診者数（確定）	
	総数	うち新成人	総数	うち新成人
ピロリ菌抗体検査（血液検査）	636	18	311	23
陽性（+）者	207 (32.5%)	2	101 (32.5%)	1
↳（医療機関での精密検査受診）	179 (86.5%)	0	58 (57.4%)	0
陰性（-）者	429 (67.5%)	16	210 (67.5%)	22
↳（陰性で高値の者）	86	—	54	—
ペプシノゲン検査	429	16	210	22
陽性（+）者数	19 (3.0%)	0	7 (2.3%)	0
（医療機関での精密検査受診）	8 (42.1%)	0	4 (57.1%)	0
陰性（-）者数	357 (56.1%)	16	203 (65.3%)	22
ピロリ菌除菌治療費助成対象者数	0		0	0

- 伯耆町においては陰性高値の者にも医療機関での精密検査を勧めている旨報告がされた。
- また、伯耆町の検査状況を取りまとめたところ、陰性高値の者の中に現感染の者が13%、既感染の者が65%あったことが報告された。

4. その他

平成30年度鳥取県新規事業について、高橋県健康政策課がん・生活習慣病対策室長より説明があった。

「脱！がん死亡率ワースト3事業」として、①鳥取のがん医療“見える化”事業、②がん薬物療法専門医、放射線治療専門医の育成支援、③働きざかり世代への胃がん対策が行われる予定である。

以下の意見があった。

- 職域検診におけるピロリ菌検査の導入について、陰性高値の者の取り扱いをどうするか意見交換され、実施医療機関を確認した上で取り扱いを検討することとされた。
- 職域検診におけるピロリ菌検査により多くのデータが集まるので、データ分析して学会発表等につなげた方がよいと意見があった。
- 薬物療法専門医等の養成支援について、外科の

「技術認定取得者」への支援もお願いしたいと意見があった。

協議事項

1. 「鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録実施要綱」の改正について

国の「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」が改正され、平成28年度検診から適用されることとして通知があった。本県の平成30年度の検診について、今年度の夏部会において、対象年齢、検診間隔については現行通り実施することとし、実施体制については、胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例は原則年間100症例以上（現行：50症例以上）に変更することとなった。

よって、県健康政策課より「鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録実施要綱」改正案が示され、検討を行った結果、案のとおり改正することとなった。

なお、「年間100症例以上」の取り扱いについて、医師個人か医療機関かを明確にすべきではないかという疑問が提起され、改めて夏部会で検討することとなった。

胃がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 平成30年2月24日（土）
午後4時～午後6時
場 所 鳥取県西部医師会館 米子市久米町
出席者 144名
（医師：141名、保健師：2名、検査技師・その他関係者：1名）
岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会委員長 謝花典子先生の座長により、鳥取大学医学

部統合内科医学講座機能病態内科学教授 磯本一先生による「H.pylori陰性時代の上部消化管診療」の講演があった。

症例検討

八島一夫先生の進行により、症例を報告していただいた。

- 1) 東部症例(1例):鳥取市立病院 相見正史先生
- 2) 中部症例(1例):野島病院 山本敏雄先生
- 3) 西部症例(1例):鳥取大学医学部第2内科 八島一夫先生